

これまでの取り組みや成果

柱1 高知のあゆに触れられる機会づくり



- (1) 観光
 - ・あゆの友釣りや火振り漁体験メニューの造成、キャンプ場やアクティビティ施設でのあゆの提供
 - ⇒新たな体験メニューを造成:4件(四万十町2件(R4)、安田町2件(R5))
 - ⇒キャンプ場やアクティビティ施設でのあゆの提供:100尾(嶺北漁協(R4))
- (2) 食
 - ・宿泊施設や飲食店でのあゆメニューの開発・提供
 - ⇒提供食数:1,212食(R4、ホテル奈半利、馬路村温泉、集落活動センターミライエ)
 - ・こうち天然あゆフェアを開催(R5.7～9)⇒49 店舗参加
 - ・こうち天然あゆまつりを開催(R5.8.27)
 - ⇒来場者:約4,300人、あゆ塩焼き提供数:約1,500食
- (3) 釣り
 - ・釣り具メーカー主催のあゆ釣り全国決勝大会の誘致活動の実施
 - ⇒ダイワ鮎マスターズ西日本ブロック大会が仁淀川で開催(R5.7.22)
 - ⇒R6年度に仁淀川で全国決勝大会の開催が決定(R6.8開催予定)
 - ・あゆ釣り体験の実施、あゆPRイベントでのあゆ釣りPR
- (4) 情報発信
 - ・あゆ王国高知ホームページを開設し、県内であゆが食べられる飲食店情報やあゆを使ったレシピ、PR動画を発信(R4～)
 - ⇒掲載店舗数:85店舗(R4～)、HP・SNS閲覧数:99万件以上(R4～)
 - ・あゆ王国高知ロゴマークの作成、あゆ王国(12区分)文字商標の登録(R4)及びロゴマークの商標出願(R5)
 - ・関東及び関西での県産あゆのメディア向けPR
 - ⇒関東メディアでの掲載数:20媒体(R4)、17媒体(R5)
 - 関西メディアでの掲載数:4媒体(R5)

柱2 高知のあゆで外貨を稼ぐ仕組みづくり

- ・県・市町村ふるさと納税でのあゆの提供
- ⇒594件(R4:県、馬路村、仁淀川町、四万十町)
- ・物流事業者と連携した複数河川(3河川)のあゆの集出荷試験を実施
- ⇒複数河川の冷凍あゆを集出荷できる体制を構築
- ・国内商社によるドバイでの賞味会において、県産あゆを提案予定(R5.11)

柱3 高知の川遊びの文化を維持する仕組みづくり

- ・学校等と連携した環境学習・川漁師体験の実施
- ⇒参加者数:886人(R4:計32回、四万十市(14回)、四万十町(4回)、奈半利(1回)、自然共生課(8回)、県学校給食会(5回))

柱4 高知のあゆを持続的に活用するための仕組みづくり

- ・産卵場の造成活動⇒参加者数:246名(R4、内水面漁協等7団体、8河川における参加組合員及びボランティア参加人数)
- ・ドローンを活用したカワウ対策の実証試験の実施等(R5、四万十町)
- ・県内各河川でのあゆ種苗放流数量:33.2t(R4、16河川)

見えてきた課題

柱1 高知のあゆに触れられる機会づくり

- (1) 観光
 - ・より多くの人にあゆに触れてもらうためには、団体客の受け入れも視野に入れた、さらなる体験メニューの造成が必要(体験、食、学習など)
- (2) 食
 - ・県民や観光客があゆを手軽に食べられる機会のさらなる創出とPRが必要
- (3) 釣り
 - ・釣り具メーカー主催のあゆ釣り全国決勝大会を誘致していくためには、関係者との協力体制や受け入れ体制の充実が必要
 - ・あゆ釣りを始めるには、道具が高価であること等、ハードルが高い
- (4) 情報発信
 - ・あゆのさらなる認知度向上や消費拡大を図るためには、県内外への情報発信の継続が必要
 - (※柱1～4すべての情報発信に関連するため、柱5として独立)

柱2 高知のあゆで外貨を稼ぐ仕組みづくり

- ・ふるさと納税での取扱いや県内外へ県産天然あゆの出荷の取組を拡大するためには、あゆの集荷事業者を増やし、集荷時における鮮度等の一定の規格化が必要
- ・国外への県産あゆの販売量を増やすためには、輸出商社等と連携した販路開拓が必要

柱3 高知の川遊びの文化を維持する仕組みづくり

- ・自然の雄大さと恵みを感じ、川と共に暮らしてきた歴史や文化を後生に引き継いでいくため、更なる環境学習等が必要

柱4 高知のあゆを持続的に活用するための仕組みづくり

- ・組合員の高齢化や減少が進むなか、保全活動を継続していくためには、流域住民や県民に河川環境の現状への理解を深めるとともに、あゆをはじめとした河川生物の資源回復・保全活動への参加促進が必要

第2期ビジョン取り組みの方向性

柱1 高知のあゆに触れられる機会づくり

- (1) 観光
 - ・関係者との連携による受け入れ体制の強化と新たな体験メニューの造成
- (2) 食
 - ・県内主要観光施設や流域の道の駅、イベント等でのあゆの販売
- (3) 釣り
 - ・流域市町村や漁協との連携による仁淀川及び他の河川へのあゆ釣り全国決勝大会への誘致活動
 - ・他メーカー主催のあゆ釣り全国決勝大会の誘致
 - ・新たなあゆ釣り層獲得のため、あゆるアー釣り及び電子遊漁券の普及

柱2 高知のあゆで外貨を稼ぐ仕組みづくり

- ・県産あゆのふるさと納税への活用による県産あゆのPR
- ・県内外への出荷拡大に向け、漁協との連携によるあゆの集荷事業者の確保
- ・各河川での集荷時における、あゆの規格化
- ・あゆを取扱う事業者による国内外での商談会等への出展

柱3 高知の川遊びの文化を維持する仕組みづくり

- ・関係機関との連携による、河川や生き物についての環境学習や川遊び、伝統漁などの体験メニューの継続・拡大

柱4 高知のあゆを持続的に活用するための仕組みづくり

- ・産卵場造成や種苗放流など、あゆ資源の回復・保全の取り組みの継続
- ・河川環境への理解の醸成に向けた取り組み(柱3)の実施
- ・保全活動等の継続のための情報発信(柱5)など、漁協の活性化に向けた取り組みの実施

柱5 高知のあゆを情報発信する仕組みづくり

- ・ホームページコンテンツの充実や関係機関と連携した効果的な情報発信の継続